



博文さん

正義さん

亡き母の口ぐせ

新潟市西蒲区

遠藤正義さん(75歳)・遠藤博文さん(72歳) きょうだい

「お寺のおつ母様（現院首の母）には、辛いときお世話になったんだ。お前たち、そのご恩を忘れてもらっちゃ困るよ」いつも2人が聞かされた、亡き母キクノさんの口ぐせである。

五ヶ浜村で生まれ育った一人娘のキクノさんは、当時この地域の一大産業だった「毒消し売り」をしていた。独身女性が県外に配置薬を売り歩く仕事だ。旅先で知り合った関西生まれの久義さんを婿に迎え、正義さんと博文さん、そして妹の久美子さんが生まれた。ところが、ある2月の寒い朝、村はずれの石切場で働いていた久義さんが落石事故で即死、当時28歳のキクノさんと漁師をしていた高齢の父親、5歳の正義さん以下3人の幼子が遺された。

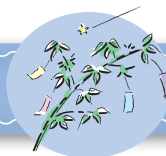
以来キクノさんは一家を養うため工事現場の飯炊き等々、懸命に働いた。その後新たに始まった妙光寺近くの採石工場で、近所の人たちと働くようになった。夜明け前に父が捕ってきた魚を網から外す作業を手伝い、そのまま朝ご飯のおにぎりを食べながら、歩いて小一時間を通り毎日だった。その道は時に波がかかるような磯伝いの危険な岩場で、現在は通行止めになっている。

ときおり「キクノ、帰りに寄れや」と声をかけ、米や野菜、時には法事のお供えに上がったお菓子を持たせてくれたのが、お寺のおつ母様だった。「家計が苦しかったので、その心遣いが本当にありがたかった」と、亡きキクノさんは語っていたそうだ。

(2ページに続く)

妙の光

復刊120号



行事案内



お盆墓参り

8月1日(月)・7日(日)

墓経受付

1日は 午前6時～10時

7日は 午前8時～12時

時間内、墓地にお上人さんが待

機しています。墓経を希望される方はお声がけください。

せがき



安穏廟合同法要と施餓鬼法要

8月1日(月)のみ

午前10時半 安穏廟合同法要(安穏廟あずま屋)

午前11時 施餓鬼法要(本堂)

各家のご先祖様のためのお

盆法要です。

卒塔婆で施餓鬼供養します

ので、事前にお申込み下さい。



新盆法要

ご希望で8月1日(月)か 7日(日)

両日とも午後1時半から

檀徒で今年新盆にあたる精霊のお位牌を本堂に安置し、ご供養します。

該当するご家庭には直接お知らせを入れましたので、ご確認の上どうぞご参列ください。

※檀徒以外の新盆供養もお受けします。ご希望の方はお問合せ下さい。

お盆棚経

8月初旬～16日

ご自宅への仏壇参りです。例年通り伺います

岩屋七面様祭礼

8月19日(金)

午前10時、本堂にて法要とお加持。岩屋に移動して法要。

お昼にお赤飯のご供養があります。ご自由にお参りください。



※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、すべての行事において内容を変更する場合があります。ご了承ください。

あ と が き

春から夏の境内では、次々と花が咲いています。4月初めの古墳周辺は、雪割草の群生が美しかったようです。その後は桜が今年も境内を彩りました。夏を迎えれば、妙光寺はサルズベリの紅色に包まれます。そして、そこにキツネノカミソリの群生も見つかりました。お寺の晩夏のシンボルになりそうです。詳細はインタビューをご覧ください。(新倉理恵子)

万灯のあかり—妙光寺の送り盆

(第33回フェスティバル安穏)

8月27日(土)

昨年、一昨年とコロナ禍で縮小していた送り盆ですが、今年は可能な範囲で拡大実施の予定です。詳細は別紙パンフレットをご覧ください。

◆献灯のご案内

1基2千円 メッセージを添えてお申し込みください。



秋季彼岸会法要

9月23日(金)・祝

午前10時30分 安穏廟法要

11時 本堂にて彼岸会中日法要

12時 おとしき

午後1時 住職法話

予約不要です。どなたでもお参り下さい。

身延山・七面山団体参拝旅行

9月25日(日)～27日(火) 2泊3日

コロナ禍で休止していた身延山へのバス旅行です。今年は実施の方向で参加申し込み受付中。詳細は別紙チラシをご覧ください。

月例ボランティア 毎月15日

7月15日(金)、8月25日(木)、9月15日(金)

※8月は25日に変更します

午前9時～12時 午後1時～3時

7、8月は送り盆の準備、9月は清掃作業等です。たくさんの方のご協力をよろしくお願い致します。



月例信行会 毎月第一日曜日

7月3日・9月4日

※8月はお休みします

午前7時～9時 予約不要

会費千円(当日賽銭箱にお願いします)

お参りと法話、軽い作務、朝粥の朝食やコーヒータムがあります。

死後の安心

一昨年から続くコロナ禍に、良い意味でも悪い意味でも慣れてきた頃。以前は、はらはらして見守っておりましたが、最近では心配し過ぎないようにとだけ考えております。お寺の行事も規模縮小が続いており、4月の「ご判様」も一昨年以来今年も半日に縮小して実施してきました。伝統行事ですので中止というわけにはいかず、来年以降のことも考えていかなければなりません。

昔の「ご判様」

「ご判様」は、平成7年（1995年）までは2日がかりの大事業でした。私は10歳で、お稚児さんの格好をさせられて嫌だったなあというのは何となく覚えています。大人になって見ると、小さい子どもが着飾っているのは可愛くて微笑ましいのですが……。2日間にわたる行事は大人にとっても、「本当に大変だった」と、亡くなった私の母や、昔からの檀徒の婆ちゃんからよく聞かされてきました。27日の午前10時から翌28日の午後まで、延々とお説教と法要を続けていたそうですから、準備から後片付けまでさぞや大変だったことでしょう。一番賑やかだった時代には3千人も人が集まり、巻の駅から臨時バスが出ていたそうです。

妙光寺の伝統行事

——300年続く「ご判様」

「ご判様」は、妙光寺だけにある行事です。日蓮聖人が佐渡に流罪になったおり、幕府

の役人として鎌倉から同行した武士・遠藤正遠が教えに帰依するようになって仕えてくれたお礼として、日蓮聖人は「あなたが今生を去る時には、私が必ず霊山浄土（仏様の世界）にお連れするから」と約束のしるしにお手紙と『ご判』（つまりハンコ）を渡されました。1274年のことです。それに由来して、妙光寺では「ご判様」のお祭りを行ってきました。

葬儀で読み上げる「霊山の契り」

妙光寺では、亡くなった方の棺の中に、おまんだらと、この「ご判」の写しをいれて故人をお送りします。また引導文の中で、遠藤正遠に送った手紙の一部を読み上げます。「霊山への契約にこの判をまいらせ候。一流は未来へ持たせたまえ。霊山に於いて、日蓮、日蓮と呼びたまえ。日蓮、その時御迎えまかりいずべく候」（あなたがあの世に行つたときに、日蓮、日蓮と呼んでくださいば、必ず迎えに行きますよ）

私はお葬式でここを読むたびに、涙ぐみそうになります。亡くなった方を「いつてらっしゃい」と送り出すときに、ちゃんと「いつつしゃい」と受け止めてくれる相手がいるのは安心ですね。

母なぎさともんた

私の母は、病気が分かってから「死ぬのなんか全然怖くない」と何度も言っていました。でもひとつも不安がなかったかという、そうではなかったでしょう。亡くな

る直前の時期、往診に来てくださった先生に「これからどうなるのか、不安ですよ」と聞かれ、頷いていた姿が今、印象深く残っています。家族に弱音は吐きませんでしたけれども、どうなるか分からないというのは不安なことだったのだと思います。その後、半分つとつしながら「もんだが迎えに来た」と言い出したりしました。もんだは、母の愛犬です。

「穢土の一日の功に及ばず」

かつて「ご判様」に多くの方がお参りされたのは、死後の安心……。日蓮聖人のお迎えを求めた気持ちも大きかったことでしょう。仏教でいう「安心」は、余計な不安や心配にいちいち心を惑わされないことです。日蓮聖人は、「極楽百年の修行は穢土の一日の功に及ばず」という言葉も残されています。穢土は、煩惱のあるこの世のことです。日蓮聖人の生きた時代は、戦争や飢饉で人が亡くなっていた時代でした。その中で「この世で幸せを求めて一生懸命生きるからこそ、安心して死んでいくことができる」と説かれたのが日蓮聖人でした。その教えを受け継いで生きていくことが大事であると伝えるために、「ご判様」は300年続いてきました。来年以降も、形を変えながら、皆さんの「安心」につながるように続けていきたいと思います。

新潟市西蒲区

遠藤正義さん・遠藤博文さん きょうだい



酒を飲み交わして語り合うふたり

妹久美子さんの死

やがてキクノさんは近くのトンネル工事現場で働く大分生まれの満さんと再婚し、三男満徳さんも生まれました。満さんも優しく、成長した子供たちの就職先を人づてに探し、時には父子一緒にトンネル掘削の現場で働いた。そんなあるとき、結婚して栃木県で暮らしていた長女の久美子さんに、胃がんが見つかった。久美子さんは実家に戻り、やっと生まれた3歳の娘をキクノさんと満さんに託して、近くの病院に入院した。娘を寂しがらせないようにと、正義さんらも一緒に正月には餅つき

をするなど、皆で協力した。しかし久美子さんは36歳の命で逝ってしまふ。

奈良県から駆けつけたご主人の父親が、「仮の葬式はこちらでお願ひするが、我が家の嫁なのですぐに奈良に連れ戻り、本葬して我が家の墓に収める。分骨なんて私たちの方では聞いたこともない」と言う。「遠い奈良では墓参りも出来ないから、僅かで良いので分骨させてほしい」とのキクノさんらの申出を頑として聞き入れなかった。

相談を受けた住職（現院首）は一計を案じ、事前に知り合いの火葬場職員にこっそり遺骨を分けるよう頼んだ。葬儀翌日、小さな遺骨箱に対面出来たキクノさんはすがたに泣いた。「あのときのお袋は、本当に感謝していたし、俺たちも妹のことなのでありがたかった」と、2人は当時を思い起こす。

弟満徳さんの急死

満徳さんだけ父親が違うとはいえ、本当に仲の良い4人きょうだいだった。満徳さんは思いやりのあるフィリピン生まれの奥さんとの間に3人の子どもが生まれ、家を離れ

た兄2人に代り、高齢になった両親の世話をしてきた。キクノさんは、満徳さんを中心に妙光寺を式場にしてきょうだい3人で葬儀を営んだ。

ところが今度は満徳さんが56歳の若さで急逝してしまふ。くも膜下出血だった。1番年下の子が高校卒業を来年に控えた暮れのことだった。一周忌には皆揃って、両親と同じ墓に埋葬された。

きょうだいの想い

弟と2人だけになつてしまった正義さんは、長い間様々な仕事に従事し、大きな怪我や事故、その時の輸血が原因の肝炎など大病も経験してきた。博文さんも、東京で生まれた長男の気管支ぜんそくに悩まされた。当時の大気汚染が原因とされて公害認定を受け、医者

しむ日々だ。

満徳さんの3回忌も過ぎた先ごろ、2人で両親の法要をささやかに営んだ。その時、「実家の墓は満徳の家族が守るって言うし、俺たちそれぞれの子どもからは、お墓を建てても自分の次の代がどうなるか分らないと言われているから」と、2軒並んで安穩廟を申し込むことに決めた。費用は正義さんの妻冷子さんが「この人はお金の管理が出来ないから、みんな私の仕事」と工面したという。

「国道402号線から入るお寺の入口案内看板が、他の寺より小さいのが気になつてしょうがないんだ。でも金が無くて寄付も出来ない。それでも俺たちお袋の言いつけ通り、お寺のことを忘れたことはないよ。」「葬式で泊めてもらったときのお寺の朝ご飯の美味しかったこと。大阪から来た従兄弟も言つてた。こんなに檀徒に寄り添ってくれるお寺、他に知らないね。イヤ、ようやく安穩廟を決められて本当に良かった。なんだか張り詰めていたものがスーと抜けたような、安心感だわ。ありがとう。」満面の笑顔で語る2人だった。

（院首記）

◆仏前結婚式 6月11日

良恵住職の妹で小川家の3女綾さんが、妙光寺の仏前で結婚式を挙げました。お相手は関東の方ですが、2人でなぎさんの墓前に報告したいとの意向によるものです。綾さんが以前に妙光寺事務職員だったこともあり、顔なじみの檀信徒の皆さんも来て下さいました。



先々代住職50回忌となぎさん3回忌法要

綾さんの結婚式翌日、親族が集まった機会にと、なぎさんの早めの3回忌、先々代住職とその妻の50回忌と27回忌それぞれの法要も営まれました。



今年の春も桜が綺麗でした



寺のうごき



◆春のお彼岸 ～法要と映画『ピア』上映～ 3月21日



在宅医療がテーマの映画『ピア』上映とトーク

お彼岸法要に併せて、第8回浄土講座として在宅医療をテーマにした映画の上映と、トークを行いました。定員の60名の皆さんによる切実感溢れた熱心な語り合いは、すぐに解決できるものではありませんが、かすかな希望の光が見えた感じです。詳細を秋号でお知らせします。

春季彼岸会法要

3月21日、春のお彼岸法要を営みました。あいにくの天候でしたが、午後から映画の上映もあり、いつもより多くのお参りでした。

◆ご判さま『お大会』 4月29日

300年の伝統行事『ご判さま・お大会』をコロナ禍対策で午前中に集約して営みました。予報された雨も午後からで、水行に始まり、山主説教、2年振りのお練り、稚児・音楽大法要が当番の皆様のご協力ですムーズに進行。華やかな春のひとときでした。



—大熊清さんに聞く—

古墳調査とともに キツネノカミソリ群生を発見?!

『角田浜妙光寺山古墳』発見が公表されてから2年余が経ち、

古墳に登る山道はボランティアの皆さんの手で整備が進んでいます。

その中で、山野草の群生地もみつかりました。

山道整備に関わっておられる大熊清さんに、お話をうかがいました。

Q 初めて妙光寺に来たのは、いつですか？

大熊 2019年秋に、初めて古墳まで登りました。発見が公表される半年前です。その時は地元の方や登山者が登る道しかない状態で、みんなで竹林の中を竹につかまりながら登りました。翌年3月に本格的な古墳調査が始まることになって、院首さんにも初めてお会いしました。

Q その後は毎週のように来て、登山道の整備をしていますよね？

大熊 私はもともと山育ちで、山登り

も好きなんです。文新協の自称土木部です。登山道を整備しないと調査する人たちが登れないということもありましたが、調査の中で「古墳時代の人はどこから登ったのだろう？」という疑問が出てきました。それで、考えられるルートをいろいろ登り下りしてみたんです。ところがこの山はどこも急登で、やはりこれまで地元の方が登っている道と考えるしかないようです。ただ、そうやって歩き回っている中で、発見がありました。

Q 雪割草やキツネノカミソリの群生地ですね。



大熊清さん（68歳）
文化財保存新潟県協議会（文新協）副会長として「角田浜妙光寺山古墳」の調査に携わる。医療機関に事務職員として勤務し、2年前の春に退職した。



カタクリ

大熊 発見といっても、知っている人は知っていたんです。妙光寺の庭師・松本さんは知っていましたし、地元の人でも知っていたでしょう。ただあそこまでの群生だとは、思っていなかったようです。

Q なぜ今までは目につかなかったのですか？

大熊 キツネノカミソリは彼岸花と同じ種類なので、春に葉が出て、夏になると葉が枯れて花が咲きます。今までは、草に隠れて目立たなかったのです。2020年夏に池の上安穩廟の向かい側の栗林を登った時、群生に気づきました。昨年6月には下草刈りをさせてもらいました。今年は松本さんが刈り払い機で刈ってくれました。花が咲いていても、周りの草が生えていると埋もれてしまって花に

キツネノカミソリ



雪割草



です。栗林の上にも群生地があつて、登ればより素晴らしい風景を楽しめます。花の新名所が、妙光寺にできましたね。

Q 登山道の整備も、かなり進めてくださっていると聞きました。

大熊 角田山にはたくさん登山道があつて、山塊の北端にあたる妙光寺山やジョウ山も整備された道ではないけれど登る人たちがいます。ただ海から一気に隆起してできた山なので、とにかく斜面が急なんです。とくに下りが滑りやすいので、古墳入口から登って6合目から妙光寺の門の前の「宮沢」に降りる登山道がおすす

Q 数ある群生地の中でも、妙光寺のものは素晴らしいとか？

小林 キツネノカミソリの群生地は、周辺の海沿いに何か所かあります。ただ妙光寺の群生地は花が広範囲に密集しています。それから山に登らなくても見られるのです。池の上安穩廟の向かいの斜面に群生しているので、車道から見上げて花を楽しむことができます。お墓参りに来たついでに、見ることもできるわけ

Q 栗林経田の登山道整備の見通しはいかがですか？

大熊 週に2回くらい作業に来ています。幸い一緒に作業してくださる檀信徒の佐藤さんグループや高橋さん、古墳発見者の岡田さん、他にも幾人かおられて、

7、8割くらいは完成しました。8月には登れるようにしたいと思っています。

Q ご出身は、松代町（現在の十日町市）とうかがっています。

大熊 生活そのものが、山とともにありました。自給自足に近かったですね。鶏・兎・山羊・牛などを飼っていて、その餌を集めて世話をするのが子どもの仕事でした。そんな山の暮らし、山の農作業の中で、自然に動植物に詳しくなりました。

Q 山野草もよく見ていたわけですね。

大熊 私は山育ちなので、芽が出て花が咲いて枯れるまでの植物を、毎日見ていました。故郷にも雪割草が咲いていて、「ジザクラ」とよんでいました。だから咲かないうちに、雪割草もキツネノカミソリも見ればわかるようになったんです。この頃は咲いた花にしか目が向かない人が増えています。登山道から離れたところに咲いている山野草をより綺麗に撮影するために、道ははずれて踏み込む方が大勢いるのが気になります。本人は花を踏みつけていないと思っています。でも「見花が咲いていないところにも、次の芽が準備されているのです。そこを踏み荒らしてはいけません。皆さんには、道からはずれずに楽しんでほしいですね。」

Q 古墳調査に関わるようになったのは、なぜですか？

大熊 大学卒業後、医療機関に勤務しました。西区の診療所に勤めていた時に、文新協の方と知り合ったのが始まりです。文新協は専門家と市民が一緒に活動する集まりで、その中で当時会長をしておられた故甘粕健先生（考古学・新潟大学名誉教授）とも知り合いました。甘粕先生は、今回の『妙光寺山古墳』発見のご縁で、今池の上安穩廟に眠っておられます。先生からは、古墳や遺跡のことをたくさん教えていただきました。橋本博文先生が東区の牡丹山諏訪神社古墳を調査されましたが、あの頃の私はまだ仕事をしていたのでなかなか思うように関わることはできませんでした。

Q 退職と同時に『角田浜妙光寺山古墳』の調査が始まったのですね。

大熊 おかげで私にとって初めて、調査の最初から関わることでできた古墳になりました。お寺の皆さんにも協力していただいて、楽しく作業させていただいています。是非たくさんの方に、古墳も花も見たいと思っています。

今夏は必ず、古墳もキツネノカミソリも見に行きます。ありがとうございました。（聴いた人 編集部・新倉理恵子）



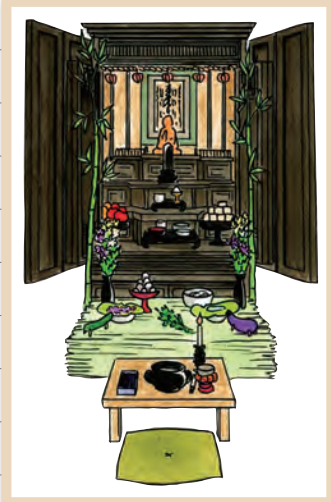
Q 「お盆」の由来を教えてください。

「お盆」の語源は、「ウランパーナ」というインドの古い言葉で、逆さまに吊るされた苦しみ、を意味します。餓鬼道に落ち、供養を受けられないままにいたる霊に対し、その苦しみを取り除くために行われるのが「盂蘭盆会」の法要です。

もともとは、お釈迦様の弟子である目連尊者が、亡き母のために供養を施した仏話に由来します。目連尊者の母は、息子思いの優しいお母さんでしたが、我が子可愛さのために慳貪の罪を犯してしまい、餓鬼道に落とされました。何とかして母を救いたいと願う、目連尊者に対し、お釈迦様は、「自分の母親だけではなく、苦しむ全ての霊に対して供養を行いなさい。その功德であなたの母親も救われるでしょう」と諭されました。このことから、目連尊者が、水や食べ物を施した行いにならい、私たちも「施餓鬼」をして、全ての精霊を供養しています。

また、お盆に皆さんの自宅を回って、精霊棚やお仏壇にお参りすることを『棚経』といいいます。元々は江戸時代に幕府の政策で、家々にキリスト教徒がいないかどうかを調べさせるために、はじめたとする説もあります。お盆の棚飾りを見て、キリシタンかどうかを確認したというわけです。

昔から盆と正月と言われるくらい、亡き精霊とともに普段離れて暮らす家族が集まる家庭の一代イベントでもありました。近頃はコロナ禍もあって、家族が集まるのもままならない時代です。お墓詣りして自宅の精霊棚にご先祖様始め故人の霊をお迎えし、家族と一緒に過ごす、そのような風習も廃れていくとしたら寂しい気がします。



誌上法話

小川良恵

お釈迦様の寿命の真実

『如来寿量品第十六』

『如来寿量品第十六』は、法華経の中でも大切にされてきた章です。歴史上のお釈迦様、つまり実在のゴータマ・シッタータは、19歳で出家し、30歳で悟りを開かれ、人々に教えを説きながらも、80歳で入滅（亡くなること）されました。悟りを開いてから50年というわずかな時間の中で、どうやって数限りない菩薩たちを教化してきたのか、そこを問われたのが『從地涌出品第十五』でした。本章では、その答えとなる、お釈迦様の寿命の真実が明らかにされます。

永遠の寿命をもつお釈迦様

実はお釈迦様は遙か昔、数字で表すと五百億塵点劫という数えきれないほどの昔に、すでに悟りを開いていました。以来ずっと仏法を説き続けてこれ、これから先も決して涅槃に入ることはありません。つまり亡くなることはないのです。その後も永遠の寿命をもって、私たち衆生を教化し続けています。80歳で入滅したというのは、人々を正しい悟りに導くための方便でした。何故ならば、お釈迦様がいつまでもこの世にいて、決して死ぬことはないと思うと、人々はいつでもお釈迦様に会えると考えて怠り心を起こし、努力を怠ってしまうためです。

良医治子のたとえ話

本章には、次のような喩え話があります。「ある国に名医がいました。彼には大勢の子供がいて、とても可愛がっておりました。しかし父親が旅行で不在のあるとき、子供たちは誤って毒薬を飲んでしまい、酷く苦しんでいました。帰宅した名医である父は、す

ぐに良薬を与えて救おうとしましたが、一部の子は、毒に蝕まれて正気を失い、薬を飲もうとはしません。哀れに思った父は、一計を案じて、再び旅に出ると、使者を遣わして「あなたたちの父親は死んでしまいました」と伝えました。悲しみのあまりに我に返った子供たちは、良薬を服用することが出来て、完治をしたのでした」

名医である父にはお釈迦様、正気を失った子どもには私たちが重ねられています。誰も、名医を嘘つきだと非難することはないでしょう。仏様もまた、私たちのために方便を駆使して、成長を促して下さっているというわけです。

くおんじつじょう 久遠実成の釈迦牟尼仏

本章ではお釈迦様の願いも繰り返し語られています。それは、生きとし生けるものすべてを救うこと。生きとし生けるすべてのものを、悟りの境地に至らしめること。生きとし生けるものすべてに、早く成仏してもらおうこと。です。そのために、永遠に近い時間、久遠に渡って、教えを説き続けている姿こそが、お釈迦様の真実なのです。

山側墓地移転

前号でお知らせした山側墓地の移転計画は、基本計画が完成しました。複数の方からお問い合わせがありました。対象の皆様の負担を極力抑えるよう進めていますので、ご心配なきようお願いいたします。移転先の基礎工事の経費負担はありません。墓石は個別に大小あるので応分の移転経費の負担をお願いしますが、原則半額は妙光寺が助成します。さらに、集団移転ですから大幅に減額されます。改めて個別にお知らせしますので、ご理解とご協力をお願いします。



墓地斜面の崩落

角田山妙光寺インフォメーション



「送り盆コンサート」にお出かけください

別紙ご案内のとおり、8月27日(土)送り盆にてアコーディオン奏者cobaさんのコンサートを行います。ぜひお出かけください。NHK等に度々出演される世界的なアコーディオン奏者で、心からワクワクする明るい音楽です。6月にはマネー

ジャーと音響担当が現地を下見するなど、大変力を入れて準備してくださっています。晩夏の境内で、生の音楽に浸っていただけます。どなたでもお誘いいただきご参加ください。

行事の新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルスの収束傾向に合わせて、徐々に対策を緩めて行きます。行事別にご案内しますが、完全解除ではありませんので、引き続きご協力の程お願いします。

年会費他のお願い

例年通り年会費とお盆の塔婆供養、送り盆の灯籠供養のご案内を同封しました。このおりに浄土基金のご寄付を下さる方が増えています。駐車場の舗装整備等の計画もあります。ご協力頂ければ幸いです。また先般、安穩会員の渡邊和子様から百万円の遺贈を頂戴しました。心からお礼申し上げます。

安穩廟最終増設計画

一昨年に64区画増設した安穩廟が満杯直前です。隣接地に112区画の増設を、来夏完成予定で行政の内諾を得ました。法的な敷地制限があり、これが最後の増設となります。現行区画が満杯になり次第、増設分の予約受付を開始します。



「過去帳」データベース化の進捗状況

お寺に残る故人の記録簿を「過去帳」といいます。妙光寺では過去300年分、

およそ一万人余りが年代別に記録され保存されています。これを家族別に整理し直す作業を進めています。時間的な制約で大幅に遅れています。完成すると、家族別に江戸時代中期以降の故人の法号をお知らせできます。同時進行中の所有者不明の墓石調査で、墓碑の法号から個人名が特定できるなど、具体的な成果も現れています。

海水浴場のラーメン店、開店遅れ

角田浜海水浴場に開店予定のラーメン店「なみ福」が、ゴールデンウィークには開店予定と前回お知らせしましたが、行政の営業許可が遅れているそうです。夏には間に合うと良いのですが。

秋の行事予告

昭和の西蒲原の風景を写真に撮り続け、後に続いた斉藤文夫さんや故天野尚さんらに多大な影響を与えた石山与五右衛門さんの写真展を開催します。10月8日～11月13日。巻郷土資料館、新潟砂丘館、妙光寺三か所同時開催。詳細は次号でお知らせします。

小川なぎささんの

闘病記

差し上げます



小川なぎささんの闘病記『先に行って待っているから、ゆっくり来てね—小川なぎさの最期10ヶ月の記録』ができました。

良恵住職の母小川なぎささんは、がんの発見から2年8ヶ月の闘病生活を送り、一昨年10月15日に満60歳で他界しました。最期の10ヶ月間は有効な抗がん剤もなくなり、モルヒネによる痛み止めの投与を行いました。本人の希望で長年住み慣れた妙光寺の自宅で過ごしました。この間、主に訪問診療医、訪問看護師、病院主治医、そして家族の4者がインターネットのメールを使って病状を常に共有し、症状に変化があればすぐに医師や病院に対応していただきました。そのお

かげで、本人も家族も全不安の無い日々を過ごし、穏やかに自宅の部屋で息を引き取りました。

この全ての記録を中心に、英爾院首の補足説明等を加えて一冊にまとめたものです。B-5版150ページ余りで、写真もふんだんに収め、この『妙の光』のデザインも手がける加茂かよさんが装幀をしてくださしました。闘病記といっても、こんな最期の迎え方が出来るのかと思える元気の出る内容です。

希望される方に差し上げますので、受付事務所にお申し出ください。遠隔地等で郵送の方は、切手200円分を同封してお知らせ下さい。ただし数に限りがありますので、お早めをお願いいたします。